京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

（3 年計画の 1 年目）

１．研究課題

モノ・知識・環境

Things, Knowledge, Environment

２．研究代表者氏名

瀬戸口　明久

SETOGUCHI, Akihisa

３．研究期間

2023 年 4 月-2026 年 3 月(1 年目)

４．研究目的

本研究では、知識をつくるモノについて考えてみたい。知識とは、人間の脳のなかでのみ生じてくるものではない。人間は手をつかって対象に触れ、操作し、加工することで知識を生み出してきた。現代社会における知識は、きわめて複雑な機械によって生み出されている。自然についての知識は、実験装置や実験生物、標本などによって日々、生産されつづけている。社会についての知識は、紙やコンピュータにデータとして書き込まれることで膨大に蓄積されてきた。これらのモノと知識のネットワークは、私たちが生きる世界の秩序と構造をつくるテクノロジーとして作動している。つまり現代においてモノは、人間をつつみこむ環境になっているのである。そこでモノは、どのようにして、いかなる環境を生み出しているのだろうか。そして増殖するモノのなかで、人間はどのような存在になっているのだろうか。本研究では、人文学の多様なアプローチをもとに、自然科学、工学、社会科学の知識について検討し、人文学そのものについても自己言及的に考察を深めたい。

This project will focus on things that generate knowledge. Usually, we assume knowledge to be intellectual information processed inside our brains. However, knowledge is always mediated by things. Humankind has created knowledge by using their hands to manipulate natural products. In modern society, knowledge is produced through complex machines. In the natural sciences, things such as instruments, model organisms, and specimens are used as the media to produce knowledge. Knowledge of society is also accumulated as information on paper and in computers. The network of things and knowledge constructs the order and structure of our living world. It means that the network of things is now the environment of humankind. This project tries to clarify what kind of environment things are creating and how such an environment has changed our lives. Based on various approaches from the humanities,

we focus on the natural sciences, engineering, and social sciences and also deepen consideration of knowledge production in the humanities using a self-referential approach.

５．本年度の研究実施状況

令和 5 年度は例会を 10 回開催し、研究の方向性について検討した。報告内容は、植物標本、統計データー、マイコン、社会学理論、台湾の犂、出産統計、言語学、植物特許、技術思想、トラクターなどである。これらの議論を通じて、モノ・知識・環境というテーマでどのような問題が検討しうるか議論した。そのうち 10 月例会（保明綾報告）では、パンデミック班と合同で行い、人文研内のほかの研究班との連携を試みた。そのほか『思想』10 月号のトーマス・クーン小特集には、本研究班から瀬戸口と岡澤が寄稿した。この小特集について 3 月に合評会を行い、本研究班が目指す理論的枠組みについて検討した。2 月には班員の河村賢氏のオーガナイズで韓国科学技術院との共催ワークショップを開催し、本研究課題に関わる研究を進めている韓国の大学院生や若手研究者と交流した。

６．本年度の研究実施内容

2023-04-28 「モノ・知識・環境」4 月例会　発表者 瀬戸口明久 人文科学研究所 混沌から秩序へ――モノがつくりあげる世界

2023-05-26 「モノ・知識・環境」5 月例会　発表者 岡澤康浩 人文科学研究所 〈印刷された数字の雪崩〉と統計データの出現：オブジェクト制作のメディア環境史に向けて

2023-06-23 「モノ・知識・環境」6 月例会　発表者 クナウト ティル 人文科学研究所 Against Invaders, Pirates, and Wizards: Technological Interest and Young Microcomputer Users in 1980s Japan

2023-09-01 「モノ・知識・環境」9 月例会 1　発表者 河村賢 大阪大学 実践のなかの概念を捉える：リンチ・ハッキング・ダストン＆ギャリソン

2023-09-29 「モノ・知識・環境」9 月例会 2　発表者 都留俊太郎 人文科学研究所 犂と機智：日本統治期台湾における模造・改造深耕犂の流通

2023-10-27 「モノ・知識・環境」10 月例会（パンデミック班共催）　発表者 保明綾 マンチェスター大学 産婆と人口統計―日本の「人口」の健康のために―

2023-11-24 「モノ・知識・環境」11 月例会　発表者 伊藤順二 人文科学研究所 ニコライ・マルの系譜：コーカサスの言語学小史

2023-12-12 「モノ・知識・環境」12 月例会　発表者 Kjell David Ericson 学際融合教育研究推進センター　日本植物特許第一号の前史：「ミブヨモギ時代」を中心に

2024-01-26 「モノ・知識・環境」1 月例会　発表者 河西棟馬 東京工業大学 ルイス・マンフォードの史論―『技術と文明』(1934) 再訪

2024-02-16 「モノ・知識・環境」2 月例会　発表者 藤原辰史 人文科学研究所 トラクター

の世界史

2024-03-22 『思想』クーン小特集合評会　発表者 塚原東吾 神戸大学 「いまさら」から、「いまこそ」にするにはどう考えたか：古典再生の試み 発表者 瀬戸口明久 人文科学研究所 コメント 発表者 岡澤康浩 人文科学研究所　『思想』クーン特集号合評会コメント 発表者 大西琢朗 文学研究科　『思想』特集 「トマス・クーン―『科学革命の構造』再読―」へのコメント　司会 河村賢 大阪大学

７．共同研究会に関連した公表実績

2024 年 2 月 21-22 日に韓国科学技術院との共催で KAIST STP special workshop, Beyond the Theory/Case Distinction: Reconsidering the East Asian Perspectives of Science, Technology, and Disaster Studies を開催した。本研究班からは河村賢（オーガナイザー、キーノートレクチャー)、岡澤康浩（司会)、瀬戸口明久（特別講演）が参加した。

８．研究班員

所内

瀬戸口明久、KNAUDT, Till、小堀聡、平岡隆二、藤原辰史、岡澤康浩、都留俊太郎

学内

ERICSON, Kjell(学際融合教育研究推進センター)、藤本大士(教育学研究科)

学外

河村賢(大阪大学社会技術共創研究センター)、標葉隆馬(大阪大学社会技術共創研究センター)、中尾麻伊香(広島大学大学院人間社会科学研究科)、森下翔(大阪大学社会技術共創研究センター)

9．共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数（必須）	受入人数					延べ人数				
		総計	海外研究者	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者（40歳未満）	若手研究者（35歳以下）	大学院生
人文研所属	1	8	1	2	0	0	46	8	21	0	0
（内女性）		(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)
京大内（人文研を除く）	1	4	1	0	0	1	28	8	0	0	4
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
国立大学	0	6	0	1	0	0	24	0	4	0	0
（内女性）		(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(9)	(0)	(0)	(0)	(0)
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
私立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
民間機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
外国機関	0	2	2	0	0	1	3	2	0	0	1
（内女性）		(1)	(1)	(0)	(0)	(0)	(2)	(1)	(0)	(0)	(0)
その他　※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
（内女性）		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
計	2	20	4	3	0	2	101	18	25	0	5
		(4)	(1)	(0)	(0)	(0)	(12)	(1)	(0)	(0)	(0)
※「その他」の区分受入がある場合具体的な所属等名称を記載：例）高校教員 無所属の場合は機関数０とカウントし、この欄の記載不要											

10．本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文（単著・共著）	9		0	
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文（共著）	0	(0)	0	(0)
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）	8		0	
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文（共著）	0	(0)	0	(0)
⑤国外の機関に所属する者のみの論文（単著・共著）	0		0	

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名	掲載論文数	掲載年月	論文名	発表者名
1	ユリイカ	1	R5.4	牧野富太郎の山歩き――植物採集の王国	瀬戸口明久
2	フィフカル	1	R5.4	ELSI／RRI 研究」を作りあげる―新しい種類の研究者の存在様式の構築をめぐって	森下翔
3	開陽丸引き揚げ文書と梅文鼎『暦算全書』	1	R5.5	開陽丸引き揚げ文書と梅文鼎『暦算全書』	平岡隆二
4	Modern Asian Studies	1	R5.5	Irrigation pumps in late colonial Taiwan: Farmers' utilization of technology and the transition to rice cultivation	Shuntaro Tsuru
5	東アジア近代史	1	R5.6	台湾農業における「技術の時代」:生産管理の導入と模造・改造農機具の普及を事例に	都留俊太郎
6	Historical Studies in the Natural Sciences	1	R5.6	The Puzzle of the Thinly Coated Pearl: Aquacultural Ecology and the Politics of Density in Ago Bay	Kjell David Ericson
7	大橋幸泰編『近世日本のキリシタンと異文化交流』勉誠出版	1	R5.7	キリシタンと時計伝来	平岡隆二
8	大橋幸泰編『近世日本のキリシタンと異文化交流』勉誠出版	1	R5.7	「キリシタンと時計伝来」関連史料	平岡隆二

9	East Asian Science, Technology and Society: An International Journal	1	R5.8	Book Review: Timothy M. Yang, A Medicated Empire: The Pharmaceutical Industry and Modern Japan	Hiro Fujimoto
10	ELSI Note	1	R5.8	「量子の未来」をめぐる23の話題 :株式会社メルカリ mercari R4D 量子情報技術チームへの重点的グループインタビュー	森下翔，肥後楽，永山翔太，寺元健太郎，久保健治，長門裕介，鹿野祐介，小林茉莉子，岸本充生
11	Jose Bellido and Brad Sherman eds., Intellectual Property and the Design of Nature, Oxford University Press	1	R5.9	Modified Pearl Oysters and Repeatable Peaches: Cultivation, Invention, and the Laws of Nature in Twentieth-century Japan	Kjell David Ericson
12	思想	1	R5.10	巨大なものとしての科学——一九六〇年代科学論におけるポストヒューマニズム	瀬戸口明久
13	三輪眞弘監修・岡田暁生編『配信芸術論』アルテスパブリッシング	1	R5.10	機械化時代の音楽・科学・人間——兼常清佐のピアノの実験	瀬戸口明久
14	思想	1	R5.10	範例と二人の哲学者——推論する動物たちの生態史のために	岡澤康浩
15	河合 香吏，竹ノ下 祐二，大村 敬一編『新・方法序説：人類社会の進化に迫る認識と方法』京都大学学術出版会	1	R5.12	秩序・存在論・心：大村論文への応答	森下翔

11. 本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名	国際共著
1	災害の環境史――科学技術社会とコロナ禍	瀬戸口明久	R6.1	ナカニシヤ書店	

12. 博士学位を取得した学生の数

なし

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

14. 次年度の研究実施計画

令和 6 年度も令和 5 年度と同様に、班員の研究の進展を報告する研究会を開催するとともに、本研究課題と関連する研究を行っている研究者を招へいし例会を行う。人文研内のほかの研究班との共同例会も企画している。そのほか国外の研究者を招へいし、国内の若手研究者と交流するミーティングを開催する予定である。ただ本研究班の例会はセミオープンで開催していて、毎回参加する出席者が少ないため、今後はコアとなる参加者を確定していく必要がある。

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

後期に国際研究ミーティングを開催する。また今後の研究班の活動の中心となるテーマや問題設定について検討する。